

## 令和7年予算決算委員会第3分科会会議録

1. 招集年月日 令和7年9月12日（金）
2. 招集の場所 可児市役所第1委員会室
3. 開 会 令和7年9月12日 午前10時45分 分科会長宣告
4. 審査事項

### 協議事項

1. 予算決算委員会の提言、委員長報告に付すべき意見について  
教育福祉 所管
  - ①児童・生徒の熱中症対策について
    - ・各学校に冷凍庫等の熱中症対策に係る予算措置を。
    - ・遠距離通学の児童の通学方法について改善を。
    - ・通学路上のクーリングシェルターの活用（地区センターや110番の家）や、低学年の下校待機についても考慮すべき。
  - ②キッズクラブ運営事業について
    - ・小学校5、6年生の待機児童について解消を。

### 5. 出席委員（6名）

分科会長	天羽 良明	副分科会長	田口 豊和
分科会委員	林 則夫	分科会委員	富田 牧子
分科会委員	川合 敏己	分科会委員	松尾 和樹

### 6. 欠席委員 なし

### 7. その他出席した者

委員長	高木 将延	副委員長	酒向 さやか
-----	-------	------	--------

### 8. 職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長	鈴木 賢司	議会総務課長	平田 祐二
議会事務局記 書	今枝 明日香	議会事務局記 書	大野 祐貴子

開会 午前10時45分

○分科会長（天羽良明君） それでは皆さん、お時間になりましたので、これより第3分科会を始めたいと思っております。

9月8日、9日の予算決算委員会におきまして、委員から発言がありました内容を基に、本日分科会の皆様から御意見をいただき、令和8年度当初予算編成に生かすために教育福祉委員会所管についての提言の取りまとめをしていきたいと思います。

予算決算委員会において、当分科会に出された意見はこちらのとおりです。

2点ございます。こちらのほうを、まずは皆様から御意見をいただいて、提言として取り上げるかどうかということを一つずつ進めてまいりたいと思います。いろいろな角度から御意見を頂戴したいと思います。

まず1つ目、児童・生徒の熱中症対策について。各学校に冷凍庫等の熱中症対策に係る予算措置を。

遠距離通学の児童の通学方法について改善を。通学路上のクーリングシェルターの活用（地区センターや110番の家）や、低学年の下校待機についても考慮すべきということになります。

皆様の御意見をお願いしたいと思います。

○分科会委員（松尾和樹君） 遠距離通学の児童の通学方法について改善をという部分なんですが、一般質問の教育長の答弁では、熱中症対策に関して遠距離通学対応等を必要に応じて予算措置を検討するという言葉があったんですけど、この必要に応じて予算措置を検討するというところに対して、自分はやっぱり危機感とスピード感を持った対応をしてほしいということを感じますので、検討と対策実現が早期に行われることを求めるような文言にしてはどうかというふうに考えてています。

○分科会長（天羽良明君） ありがとうございます。

積極的な御意見をいただきましたので、まずは取り上げるという御意見でよかったです。

○分科会委員（松尾和樹君） その前提で発言しました。

○分科会長（天羽良明君） ありがとうございます。

そのほか、皆さんありますか。

○分科会委員（富田牧子君） 低学年の下校待機についても考慮すべきと言うけど、これって学校の授業時間とか、あと先生は、子供が帰ったらそれで暇じゃないわけです、やることがいっぱいあって。だから、誰がそれを見るのという話で、ちょっと何かこれは私はあんまり書かなくてもいいんじゃないかと思うんですけど、例えばキッズクラブに行く子はキッズクラブに行くんで、それ以外の例えば親が迎えに来てもいいとか、そういうふうにしたほうが。学校で見よというのはどうかなというふうに私は思います。

○分科会長（天羽良明君） ありがとうございます。

富田委員からも松尾委員からも、一応積極的な検討のほうはいいんじゃないかということ

で、こちらのほうを残すということで皆さんよろしいでしょうか。

○分科会委員（林 則夫君） まだ生まれておらん人がいるかもしけんけれども、約50年ぐらい前ですかね、今渡北小学校の発案で子ども110番の家が始まったんです。

そのとき僕は初代の市P T A連合会の会長を9年間やったんですが、そのときにまだ熱中症対策なんてことは全然考慮がなくて、子供の安全な登下校を期すためにということで、うちも子ども110番の家の看板を掲げて50年近くになるわけですけれども、当時は通学する子供たち、東明小学校の場合はそんなに遠距離はないんですが、羽崎地区においてはね。そのときに校長に、うちは通学路に直面をしておりまして、道端にあるもんですから、その上に玄関先に水道の蛇口もあるもんですから、子供が暑い時には水を飲んでいいよとかね。それから通学のとき、窓越しに時間を、今の子供はみんな時計を持っておるかなあ、それで当時は大きな時計を買って、子供たちの通学に見えるようにしてやったんですよ。それで、時にはトイレを貸してくださいとかそういう話もあって、校長にも話して、下校のときにはトイレを済ませてから下校するようにということで、現在はそういうことはなくなったんですが。それから、この頃は通学には水筒を持っていますね。だから蛇口で水を飲んでいく子供もおらんわけなんです。

それで、今はこんな看板が上がっています、110番の家はね。当時はたしか三角形の旗だったんですよ。旗がぼろぼろになつたりして付け替えをせんといかんもんですからこれに替えさせたんですが、そのときに何度か、この間も澤野委員やつたか、空き家に看板が上がつておるとかいう発言があったんですが、失敗したなと思ったのは、あの看板は非常にのりでくっつけたら剥がれないんですよ。だから、剥がすと壁の塗料までついてきたりガラスが破れたりして大変なんだから、こういうこともあるかなと思って聞いておったんですが。

そういうことで、何とか子ども110番の家を存続していくことは僕は非常にいいことだと思う。また、それに附帯していろいろやらせようと思う中で、地区センターや110番の家ですね、この110番の家だけはこれ以上何にもそんなにやらせんほうがいいと思いますので、110番の家だけは外してほしいと思うし。なかなか通学は子供たちもばらばらで来る場合もありますし、大変だと思いますので。

それからもう一つ今、僕はもう早くやめなさいということを校長にも言ったんですが、年に1回、今年はタオルのハンカチを110番の家にお礼にくれたんですよ。錢もないやつがそんなことやらんでもいいから早よやめろと僕は言っておったんですが、いまだにそれが通じていないもんですから、また教育委員会で一本化して、この間も3者の責任論が出ておったけれども、そんな問題じゃなくして、教育委員会なら教育委員会で一括把握して指導するよにしてね。

年に1回子供たちから110番の家にはがきをくれるんですが、おかげさまで安心して通学できておりますというはがきが来るもんだから、僕は学校宛てに返事のはがきを出すんですが、一生懸命頑張ってやるから安気に通学しなさいと。その程度のあれでいいもんですから、何とか110番の家だけは存続をしながら、そんなにやたら役割を増やす必要もないと思うん

です。地区センターとか、できればコンビニあたりでいろんな施設をお願いするのはいいんですけれども、110番の家にはそれ以上の御負担はかけんほうがいいような感じがいたします。以上です。

○分科会長（天羽良明君） ありがとうございます。

林委員からも、積極的に児童・生徒の熱中症対策についてはあらゆる角度から検討をという御意見がありました。

松尾委員も富田委員も林委員もそのような意見ですよね。こちらのほうは残すような格好でおりますが、どうでしょうか、ほかの御意見は。

○分科会委員（富田牧子君） クーリングシェルターの活用として地区センターや110番の家と書いてあるけれども、クーリングシェルターと110番の家は違いますし、だからさっきも言ったように、涼み処とか何かあったんだけど、それをきっちと書いたほうがいいと思うんですね。地区センターとか、あとどこ、いろんな施設のところ、あれは健康増進課のほうで決めたと言われたのね、教育委員会じゃなくて。涼み処というのは健康増進課のほうでやつたというんで、この書き方だと110番の家もクーリングシェルターかと思われるけど、ちょっと違うんで、それをきっちと書いたほうがいいんじゃないと、地区センターだけじゃないよね、涼み処って。

○分科会長（天羽良明君） ありがとうございます。

今、皆さん委員のほうから積極的な御意見をいっぱいいただいておりますが、残すというような格好の大筋で、それは皆さん大丈夫でしょうか。

[「はい」の声あり]

ありがとうございます。

○分科会委員（川合敏己君） まず2つ、予算決算委員会のほうからの提言についての検討ということであって、この熱中症対策の部分については、私もちよつと残して議論していくことでいいと思います。

○分科会長（天羽良明君） ありがとうございます。

まず一つ、これですね。

副分科会長、どうでしょうか。

○副分科会長（田口豊和君） ありがとうございます。

僕も残して議論していったほうがいいと思います。

○分科会長（天羽良明君） ありがとうございます。

それでは、全員が残すというような格好でまとまりましたので、1つ目は残していきたいというふうに思います。

まずは一つずついきたいと思います。

成文化は後としまして、次に、キッズクラブ運営事業について。

小学校5、6年生の待機児童について解消をということで当分科会のほうに来ておりますが、こちらのほうはいかがでしょうかというところです。

ちょっと情報としましては、予算決算委員会のときには令和6年度の待機児童は4月1日現在ありました。通年利用が28人、長期利用が59人ということです。通年におきましては低学年の2年生においても3人ほど待機があり、高学年のほうも待機があります。

その1年後がどうなっておるかということで保育課のほうから資料をいただきましたが、待機児童がなかった帷子小学校が待機児童ありというような形になり、5、6年生で11人の待機児童が出ております。

総数でいきますと、先ほど言った令和6年は28人のところを、令和7年、今現在進行形ですが、これですと47人に、1.6倍ぐらいになっております。そして、長期におきましても59人だったのが72人というような形に、1.25倍ぐらいに待機児童が増えておる現状があります。この要因は様々な要因があろうかと思いますが、一つは暑さのことがあろうかと思います。

前予算決算委員会の山田委員長から分科会への提言を送ったということでいただきました。こちらのことについても、市として待機児童をゼロという目標を掲げた時期もありましたが、保育課のほうの説明からも、今子供1人当たり1.6平米という基準でいきますとこのような現状があるということで、各市町村も工夫をしてしごうとしたときには、詰め込み作戦という形でいけば1.2平米に面積を減らしたり、そういう形でやっているところもあるというような御答弁の中でしたが、この点についてキッズクラブ運営事業について、この分科会として残すか残さないかということを御意見を頂戴したいと思います。

○分科会委員（富田牧子君） 5、6年生は、4年生までが優先なのでどうしても、4年生までの待機児童を出すことは私はいかんと思うけど、現状からすれば5、6年生はちょっと致し方ないんじゃないかなというふうなことを思います。

この委員会でもキッズクラブに行きましたよね。大変な状況で、低学年がいっぱいいで、今渡北小学校ですか、行ったんだけど、本当にすごく大変な状況で、もういっぱいいっぱいで、5、6年生と言われても、もうやっぱり先ほど言われたように場所の問題があるのでね。

それから、5、6年生は学校が終わる時間もはっきり言ったら遅いですよね。だから、キッズクラブにいるとしても少ない時間だというふうに思うので、とにかく4年生までは絶対に待機児童は出さないでということで、現状として5、6年生の問題については、私はちょっと方策はないというふうに思うので、致し方ないんじゃないかなと思います。

○分科会長（天羽良明君） ありがとうございます。

そのほか。

○分科会委員（川合敏己君） キッズクラブの、例えば今渡南小学校の2年生1人とあります。広見小学校も2年で1人あるんですけど、例えば今渡南小学校の場合は、本当は入れるつもりじゃなかつたんだけれども、シフトの直前で人が辞めてしまって私が代わりに入らなきやいけなくなつたからということで、直前に申込みをされたから入れないケースとか、そういうものもあったりするんですね。だから、多分この今2年に1人がなぜ入れなかつたかの状況だけは、やっぱりきちんと把握はしておいてもいいかなあとは思います。

つまり、やむを得ず待機児童のほうに回ってしまったというケースだって、やっぱりあり

得ると思うんですよね、低学年は優先して入れてもらえるはずなので。そういう状況をきちんと委員会としても事情は分かっておく必要があると思うのと、あと富田委員の御意見とちょっとかぶるところがあつたりするんですが、キッズクラブのこの問題を解消しようと思えば、やっぱりもう床面積を増やすしかないのかなと思います。そこまでのことを市に対して、何千万円、何億円というお金になるような気がしますけれども、しますかというところなんですね。

5年生、6年生の待機が多いというのは、やはりそういったところで低学年を優先して市も一生懸命やってくださっているし、あと長期に関しては勤労者総合福祉センターＬポート可児で、そこだけではまだまだ足りないような状況でもあるんですけども、とにかく場所と指導員の方を確保することを本当に考えた場合に、そこまで要求しますか。例えば1年生ですごい待機児童が出ている、2年生ですごい待機児童が出ていて、やっぱり1人で家には置いておけないというような状況があるんであれば、結構そこまでの提言はしてもいいかなあと思いますが。

結論を言いますと、今回は提言の案には入れなくてもいいかなというふうに私は思います。長々とすみません。

○分科会長（天羽良明君） ありがとうございます。

ほかに御意見はございませんか。

○分科会委員（松尾和樹君） 私は提言に入れる可能性もあるかなあというふうには思っているんですけど、まず低学年優先という部分については、確かに僕も今回の予算決算委員会で質問を出しまして、2年生の待機児童が気になるということについては、やっぱり申込みの時期が遅かったので、もう締め切っちゃった後で定員に達しているので難しかったということだったと思うので、その辺りの情報は周知ということぐらいしか多分行政にはできないのかなと思ったんですけど、答弁の中で、学校の教室利用については教育委員会と突っ込んだ協議をしていくというような発言がありましたので、そこの協議を進めてくださいというような内容でしたら提言は考えられるかなということは感じました。以上です。

○分科会長（天羽良明君） ありがとうございます。

ただいまは残すという御意見をいただきました。

そのほか御意見はございますか、そのほかの皆さん。

○副分科会長（田口豊和君） ちょっとどっちつかずな意見になっちゃうんですけど、キッズクラブに関しては、残す残さないは半々かなと思いながら打合せをしておりました。

やっぱり現状、子供がこれから減っていくわけなんで、その状況の中でじゃあキッズクラブを増やしてというのもちょっと筋がおかしいかなと思いますし、かといって、預けたい人もいるということに関してはやっぱり取り組んだほうがいいのかなとも思ったのと、あともし取り上げるんであれば、多分単純に面積を減らすというのは、1年生、2年生の現状を見るとちょっと怖いな、要はキッズクラブの指導員とかの責任が大き過ぎたり、あとは今でも現状すごい多分低学年はいっぱい人数がいて大変なので、もうとてもじゃないけど詰め込ん

で安心して預けられる状況かと言わいたら、僕は安心はできないというのもあり、要求していいのか迷ったのが、キッズクラブの指導員はこれからも確保したり募集をしたりボランティアを増やすという感じのことを言ってみえたので、人に対する研修とか、そういうところにあって質を高めることになってくるのかなあというふうに思ったので、残す残さないかはちょっと決めきれませんでした。以上です。

○分科会長（天羽良明君） ありがとうございます。

ただいまは残さなくてもいいというような方が一応主流になっておりますが。

○副分科会長（田口豊和君） すみません。改めて考えてみて、僕は残さなくていいと思いました。以上です。

○分科会長（天羽良明君） 一応正・副分科会長では、提言という形でもし皆さんを取り上げるというふうになったときのために、理由としては、やはりこの暑さの話からは来ているんですけれども、現在増加傾向にないんであろうかというところで、スペースの不足とエリアが分散しちゃっているというところの話もありましたので、そういった分散を解消するためにも予算が必要だろうということで、あとは先ほどお話もありましたが、教育委員会と子育て支援課の関係との調整なんかも積極的にやっていただくということも後押しができればということで、一応文面は用意してきたつもりなんですけれども、皆さんの御意見をいただければと思います。

松尾委員、いかがでしょうか。皆さんそんなような話もありましたけれども。

○分科会委員（松尾和樹君） 予算措置に対する提言ということで考えると、提言をしなくてもいいのではという考えに今は傾いてきました。

ただ、先ほど伝えたかった、発言したかった意図というのは、今副分科会長が言われたとおりで、実際に預けたいけど預けられてない子たちがいるという事実はあって、そこに対して予算決算委員会の答弁では、学校の教室の利用について教育委員会と突っ込んだ協議をしていくということは言われていたので、そこは委員会としても気にかけていくところだなというふうに感じました。

面積基準の部分でどうしても課題になって、関東のほうではこの1.65平米をもう少し数字を小さくして受け入れ人数を増やしているということについては、あまり得策ではないというふうに印象を持ったので、暗に待機児童について解消をというだけだとちょっとよろしくない提言になってしまいそうな方向性があるので、今後この部分については提言に上げずとも注視をしていくということにとどめておいてはどうかなというふうに今は考えている次第です。以上です。

○分科会長（天羽良明君） ありがとうございます。

○分科会委員（川合敏己君） 今、松尾委員さんがおっしゃられたようなことを、やっぱりここは実際でもできていない部分で大切なところもあるし、例えば1.6平米の話なんですけれども、低学年は本当にすごい大変ですよね、もう動き回ってエネルギーの塊だというぐらい、支援員さんも本当に大変な思いをされていらっしゃるんですが、例えば高学年、5年生、

6年生ぐらいになってくると、どういう部屋で、5年生6年生だけの部屋があるのかちょっと分かりませんけれども、そこら辺は1.6平米なくとも、例えばおとなしく勉強していくねとかというようなことであれば、この通年の待機児童の人数からするとどうなのかな、無理して、やっぱりよくないですかね、できんことはないかなという気もしないでもないんですけど、私は。

ただ、いずれにしても先ほど松尾委員が言われたような意見とか田口委員が言われたような意見を、提言はしませんけれども、委員長報告に付してくれというような形で予算決算委員会のほうに申し送りしてもいいのかなというふうには思いました。

○分科会委員（富田牧子君） 高学年なら狭くていいとかそういう問題じゃないのね。安全基準でこれだけというのは決まっているわけですから、それはもう環境の悪化ですよ、そんなことしたらね。人がいるからって、そういうところまで変えてきちゃうと、何のためのキッズクラブなのかよく分かりませんね。

○分科会委員（川合敏己君） さっき自分で話しながらそうかなというふうに思いましたので、ちょっと取り下げさせていただきます、すみませんでした。

○分科会長（天羽良明君） ありがとうございます。

○委員長（高木将延君） すみません、予算決算委員会のほうからですが、実はキッズクラブということではないんですが、令和6年度に対して令和5年度のときに出している提言の中に、子育て支援に関する人員確保についてということで、保育士やキッズクラブの指導員の確保に対して、人員確保に努められたいということで提言を出しておりまして、その対応として人員確保できましたということで、この令和6年度の予算が上がってきたという経緯がございます。

ですので、今皆さんの中にもいろいろありましたけど、指導員の人員確保ということではなくてスペースの問題だろうなというのは多分皆さん見えているだろうなというところではあるんですが、やはり方向性としてキッズクラブを今後どういうふうにしていったらいか、それは安全面の部分ですとか待機の解消なのかというところを、どちらを重視するかというのをやっぱりもう少し議会として情報を得てやっていくからなのかなというふうに委員会のほうでは思います。

ですので、提言を上げるか上げないかというのは今議論していただいているところではございますが、委員会のほうでもう少し注視していく案件でもあるのかなというふうに思ったので、ここで発言させてもらいました。以上です。

○分科会長（天羽良明君） ありがとうございます。

今、委員長のほうからもお話をありました。委員のほうからもお話をありました。

こちらのほうは今後も所管事務調査の項目に入れて、年間計画の中にも入れながら、現場のことも見ながら調査研究して、よりよい環境が整うような形にしていくということで注視をしていくということにして、今回この分科会としては提言には盛り込まないということで進めていきたいというふうに思います。

皆さん、よろしいでしょうか。

[「はい」の声あり]

ありがとうございます。

続いてもう一つ、昨日、建設市民委員会の関係の分科会のほうでもありますて、その他というような形でこの1番、2番以外にも1つ、その他というところを設けて取り上げたことによって1つ新たな提言が生まれたということがありますので、当分科会におきましてもその他のところがあれば、この1番のほうに、成文化に入る前に皆さんの方から御意見を頂戴したいと思います。

その他ございませんか。

[挙手する者なし]

何か副分科会長ありませんか。

○副分科会長（田口豊和君） 特にありません。

○分科会長（天羽良明君） 皆さんの方からも、特にないということでよろしいでしょうか。

[挙手する者なし]

暫時休憩させていただきます。

休憩 午前11時16分

---

再開 午前11時17分

○分科会長（天羽良明君） それでは会議を再開させていただきます。

その他というところに入りたいと思っております。

御意見のある方は発言をお願いいたします。

○分科会委員（林 則夫君） この問題はその他じゃなしに、本来だったら本文でいかんといかん問題だと思うわけなんですが、先般も教育委員会の局長と教育総務課長と面談をしたときに、僕の資料と教育委員会の資料とちょっと誤差があったわけなんですが、今、全国の小学校の体育館の冷暖房というんですか、エアコンですか、空調施設が22.4%なんです。中学校が25.4%ということになっておるもんですから、なかなかこの財政状況の中で、可児市が即空調の整備にかかるというのには程遠いかなと思って、そんな話をしておったんですが、ちなみに東京都は普及率が96%なんです。いかに財政力の差があるとはいえども、早く子供たちに空調施設の効いた体育館で運動させたいなと思ったら、やっぱり東京へ移住するよりもかなかなというようなことも冗談交じりに言ったわけなんですが。

そうした中で、この間空調施設にこれから取りかかるというような答弁があったもんですから、本当にこれは画期的なあれでね、本当に財源はあるのかよということが言いたいわけなんですね。ところが、何としても子供たちの将来のためにということでやってやらんといかんと思うんですが、一つは文教関係です、要するに子供の教育のため。

これともう一つは、各小・中学校の体育館は災害時の避難所になっておりますね。もし万が一、そんなことないと思うんです、可児市ではね、体育館に全部避難させるようなことは

ないと思うけれども、空調設備だけはやったけれども、災害といえば地震、風水害がありまして、停電の可能性があることはあまり想定していないんですね。だけど、空調の設備だけ、施設だけしたけれども電気がなかつたらどうするというんだ。だから、これからやるとしたらセットで、停電した場合にいかにその空調を働かせるか。電源ですね、発電機、これもセットで考えんといかんぞということを僕は言いたいんです。

これは昨日だったかおとといだったか、ちょっと新聞に出ていたから切り抜いてきたんですが、ガスエアコンという話が出ておりました。ここでガスエアコンの話だけじゃなしに、ちょっとええこと言うなと思ったんですが、ガスが止まった場合にはプロパンでも対応できるような設備にするということを言っておるもんですから、これはやっぱりちょっと先を読んでおるなと思う。電気のことに関しては、電気が止まったときにどうしようと案は全然ないですね。だから、そのところをよく考えて予算化すれば、財源もその分要るかもしれませんけれども、やっぱりセットで考えて、電気のエアコンをつけたら発電機も同時に設置するというようなことを申し上げたいと思いました。ちょっとそのことだけ。

○分科会長（天羽良明君） ありがとうございます。

その他で粘ったのはそういったこともございまして、実は先日、田口副分科会長のほうからもそのような意見交換もさせていただきましたし、実は昨日、教育総務課長ともお話をさせていただきました。ガスの話もありましたし、いろんな角度からこれから令和8年で設計をすると。そして、令和9年で先に中学校に設置して、令和10年で小学校に設置するということで、すごく大がかりなプロジェクト、予算がすごく多い、近年トイレ洋式化からずうつて来ておりますが、そういったことも昨今の事情に合わせて、そのものの計画のままでいいということですね。皆さん今年暑さを感じられて、来年が涼しくなるというふうに思われるんであれば私はいいんですが、このままの暑さ、さらにはもっと暑くなるんじゃないかということの中で、小学校が3年後か4年後に設置というような形を想定した格好で皆さんともお話ができればということがありまして、教育費が膨れ上がっていくこともお伺いしましたけれども、この分科会のほうでそういったことも、もうやることが前提で私も質疑も出しておらずおりましたけれども、そういったことも再確認しながら、もっと早く進める考えたり、先ほど林委員のほうからも電源が切れてしまったときのことを考えて発電機やプロパンガス、そういったあらゆる面を想定して、これから先進市視察にも入れております関係もありますので、ぜひ当委員会としてこの体育館のエアコンについても提言をということで、私もそのような格好で賛成したいところではあります。

皆さんのほうから御意見を頂戴したいと思います。

○分科会委員（富田牧子君） その他じやなくて、1番のところに入れればいいんじゃないですか、それも入れる。その他じやないので、とにかく暑さ対策ですから。

○分科会長（天羽良明君） ありがとうございます。

先ほど関東の例がありましたね。九十何%以上という林委員さんからもありまして、今回、埼玉方面視察でというところで考えておりますが、これはやはりかなりの確率が高い設置に

なっております。そういうところも先進市視察も控えておりますので、当第3分科会としては提言のほうに盛り込もうという意見が今富田委員のほうからも出ましたので、ほかの皆さんはどうでしょうか。取り上げるという形の御意見ですが。

○分科会委員（川合敏己君） 私も、基本的には熱中症対策についての中で触れられるんであれば触れてもいいかなというふうには思います。

やられるということなので、実施計画を立てて、中学校を先に工事して、小学校を後に工事というところまでもう決めていらっしゃるので、林委員がおっしゃられたことは、そういう視点はあるなと、ちょっと今目からうろこでしたけれども。

○分科会委員（林 則夫君） 鉄は熱いうちに打てとか、喉元過ぎれば熱さを忘れるところがあるけれども、この時期にこれはきちんとやっておかんと、なあなあで終わっちゃう形になつてもいかんもんですから。

一番僕が心配するのは財源の問題ですね。これは東京都のように自主財源ができるような話じゃないもんですからね。可児市で市単独でできるような話じゃないもんですから、どうしても国・県だよりになってくると思うんです。だから、そのためには市長も執行部もその点は十分考慮した上でああいう答弁をしたと思うんですけども、やっぱりこれは執行部だけに任せずに、やっぱり議員も一丸となって予算獲得、財源の獲得のためには協力しないといかんと思いますし、この間も教育委員会の局長が説明をしておったんですが、やっぱりこれはお兄ちゃん、お姉ちゃんが先に義務教育を終えるわけですから、少しでも早くやってやろうというような、これは全国的な方針じゃないかなと思うわけなんで、そういうことも理解しながら、できれば一緒にできればいいけれども、優先順位をつけて中学校を先に工事するとか、何とかということを執行部と一丸になってこれから考えていくべきだと思います。以上です。

○分科会長（天羽良明君） ありがとうございます。

そのほか、ございませんか。

〔挙手する者なし〕

それでは、こちらの件も当分科会に提言という形の成文化に入るということで進めてまいりたいと思います。

ここで少しお諮りしたいんですが、委員長・副委員長でこの2つに関してのたたき台をつくりたいと思っておりますので、少々お時間を頂戴して、40分までお時間を頂ければ、ちょっとたたき台を作させていただけるので、そこまで休憩を取らせていただいてもよろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

それでは、11時40分から再開させていただきます。休憩とさせていただきます。

休憩 午前11時28分

---

再開 午前11時40分

○分科会長（天羽良明君） それでは、時間となりました。第3分科会を再開したいと思います。

正・副委員長で成文化をさせていただいた折に、先ほどは2つになっていたものなんですが、ちょっと1つにしてみました。

文章のほうを読み上げます。

児童・生徒の熱中症対策について。

児童・生徒の熱中症対策として、冷凍庫設置、クーリングシェルターの活用、遠距離通学方法の改善など、今できるあらゆる対策に対して必要な予算措置をされたい。また、小・中学校の体育館、空調設備設置を進めるに当たり、災害時の避難所になることも考慮して、工事設計業務を早期に予算化し進めることという形で1つにさせていただきましたが、1つより2つがいいとか、いろいろ御意見を頂戴したいと思います。

○分科会委員（川合敏己君） 指定避難所は地区センターで、2次的な避難所としてはもちろん小・中学校の体育館というのはあるんですよね。だから、小・中学校の体育館が避難所となる場合というのは、もうとんでもない大災害が起こって、地区センターがいっぱい入り切らないようなケースなのかなあというふうには、ちょっと思っております。

○分科会長（天羽良明君） ありがとうございます。

ということで、災害時ということを少し抜いたほうが、想定してというのは、もちろん想定はしておりますし、行く行くはそうなっていくこともあるわけですが。

○分科会委員（川合敏己君） 可能性があるので、皆さんはどう思われるか。

私は、少し災害時の避難所になることも考慮してというのを文言に入れることはちょっとどうかなあと思いますので、ぜひ皆さんの御意見も、この文章を生かすか伺いたいです。

○分科会長（天羽良明君） この災害時の避難所になることもということですが、こちらのほうも入れたほうがいいかどうかというところですが。

○分科会委員（富田牧子君） 私もそこは抜いて、またというところを予算措置されたいというところの次に来て、また小・中学校体育館の空調設備の工事設計業務を早急に予算化し進めることというふうにしたら、だって、やってもらえるそうなんだから、早くしてというぐらいでどうでしょうか。

○分科会長（天羽良明君） すっきりさせた形を今表示させていただいております。

もちろん先ほど林委員のほうからお話があったようなガスの関係とか、その間も時間がかかるので、いろんな角度から想定をしろという意味もあって、含みを含めた形で文章をちょっと短くさせていただきました。

○分科会委員（林 則夫君） 僕はガスのことは言っていません、電気のことだけです。

それで、欲の深い男だもんだから、学校関係ですとこれは教育関係の予算になっちゃいますね。ところが災害を入れると、省庁をまたいだ形で両方から予算を両取りできるようなことも考えていくべきだという意味もあるんです。教育予算のほかに、そこの文面はどういうふうに分けてもいいけれども、学校関係で使うだけでしたら、災害時は使いませんので、電

気は通じます。ところが災害となると、電気が切れるおそれがあると、そういうことになれば空調設備は動かないと、そのために発電機が欲しいということです、予算獲得のため。

○分科会長（天羽良明君） 分かりました、ありがとうございます。

提言の文面としては、このような形で今のところ考えております。

どうですか。副分科会長、いかがですか。

○副分科会長（田口豊和君） 僕は初めはまたの前まで考えていて、要は熱中症対策でも体育館以外の部分、体育館のクーラー設置に関してはやることは決まっていたので全然僕は考えていなかつたんですが、今、林委員から言われた災害時のこととか個別の支援計画に対してすごい必要なことやなと思ったので、僕はこれでいいと思います。

○分科会長（天羽良明君） ありがとうございます。

皆さん、いかがでしょうか。

[挙手する者なし]

暫時休憩とします。

休憩 午前11時45分

---

再開 午後0時05分

○分科会長（天羽良明君） それでは会議を再開させていただきます。

当分科会の提言といったしましては、児童・生徒の熱中症対策についてを取り上げ、それを成文化して分科会の結果とさせていただきたいと思います。それに当たっては報告書の書式がございますので、各委員から出ました思いをそちらのほうにも載せさせていただいて、提出を考えさせていただきたいと思います。

それでは、提言の内容のほうを読み上げさせていただきます。

児童・生徒の熱中症対策について。

児童・生徒の熱中症対策として、冷凍庫等の設置、クーリングシェルターの拡充、遠距離通学方法の改善など、今できるあらゆる対策に対して必要な予算措置をされたい。また、小・中学校体育館の空調設備設置の工事設計業務については早急に予算化し、進めること。以上です。

こちらのほうで上げさせていただいてもよろしいでしょうか。

[「異議なし」の声あり]

異議なしと認めます。

それでは、第3分科会をこれで終了させていただいてもよろしいでしょうか。

[「はい」の声あり]

それでは、第3分科会を終了させていただきます。お疲れさまでした。

閉会 午後0時06分

前記のとおり会議の次第を記載し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和 7 年 9 月 12 日

可児市予算決算委員会第 3 分科会長